

建築家 通信

2015.6.30

vol.106

公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会
J I A 長野県クラブ

<http://www.jia-nagano.com>
E-mail info@jia-nagano.com



戦後日本住宅伝説



伝説のインスタント建築 WORK Shop



戦後日本住宅伝説



ハヶ岳建築探訪ツアー

「建築とアート」～美術館と建築展～ 松本市美術館 館長 小川 稔

美術館が建築、建築家について展覧会を企画することは今や特別なことではない。

過去20年ほどの間、フランク・ロイド・ライト、ル・コルビュジェなど欧米の近代建築家に焦点をあてた展覧会が全国の美術館で繰返し開催されてきた。

わが国の近代建築史の見直しについては2005年、芸大美術館における「吉村順三展」が画期的ではなかっただろうか。写真と模型と図面だけの展示に驚くほどの来館者があった。

今年の松本市美術館の「戦後日本住宅伝説」(4月18日～6月7日)にも専門家でない多くの一般観客が集まった。巨大なモニュメントではない住宅は、個人とその家族の生活、生命を支えるためのもの。居住する人の人生と運命を共にするきわめて人間的なスケールの器だ。建築の外形よりもむしろ内部に関心をもたれるのも近年の傾向なのだろう。いずれにしるこの展覧会は戦後日本人の生活の歩み、その内面の軌跡を端的に表すものとして見ていただけたのではないだろうか。

現代の観客は建築をただ芸術作品、歴史的モニュメントとして鑑賞したり、教養として見ているわけではない。だれもが自分の身近な生活に引きつけ、建築やモダンデザインに関心をもっている。もちろんその先に都市計画と景観保全のバランスなど、むずかしい社会一般の問題もからんでくる。

これほどに関心が広がっているのは、建築が本来的に幻想、フィクションを多量に含んでいるからだろう。建築が単に合理的な構築物であるなら図書館で資料を読んで済むこと。美術館の建築展が賑わうのは現代建築の本質に非合理的なものがあって、そのわけのわからないもの、言い換えれば未来の夢も含む、見知らぬ物語に引かれるからではないだろうか。地味な資料を通して建築家のもくろみを読み解く技術が非専門家のなかに培われてきたことも理由だろう。模型や図面をながめて驚き、あるいは我が家に引きつけて呆れながら楽しむこともできる。もちろん実際の建築物の見学ツアーは

いつも人気がある。

美術館で開催された建築展で思い出すのは2007年、国立新美術館の「スキン+ボーンズ」展だ。ロサンゼルス現代美術館で企画されたものだが、1980年以降の脱構築建築と同時代のファッションデザインを合わせるという意表をつく、また過激な内容でもあった。この間の建築とファッションの世界でいかに日本人デザイナーたちが重要な役割を果たしたかにもあらためて気づかされた。

考えてみれば衣裳も家も原始時代の人間の皮膚を幾重にも覆い、保護するという一義的な目的を共有するものだった。まったく異なる進化の道を歩んだ両者が20世紀末にまた近接するとの大胆な仮説なのだが、この時期の建築家たちが構造的なものから「表面」あるいは触覚的なものに関心を移したのと逆に、ファッションデザイナーたちが触覚的なものから離れ、構造的なもの、あるいは社会的なものに関心をもち始めたという交錯が見ものであった。

最近の話題では昨年、市原湖畔美術館で開催された「原広司:WALLPAPERS展」がある。ご自身の設計による美術館の壁面が隙間無く、色サインペンによる文字で埋め尽くされていた。テキストはアリストテレスから法華経、宮沢賢治にいたる。これほど謎めいた展覧会もめずらしいのだが、ここにも現代の建築家にとっての「表面」の話題が続いているとみることができ。

今後、20世紀の日本文化史を展望するとき、画家、彫刻家ではなく建築家、ファッションデザイナーが上位を占めるのは間違いなことだろう。国公立美術館はこのようなデザイン・アーカイヴとしての役割をまだ十分に果たしていないと思うのだが。



倉橋英太郎氏 追悼

追悼の言葉 JIA長野県クラブ代表 山口 康憲

倉橋英太郎さんが5月21日に急逝されました。突然の訃報に、驚きと大きな悲しみと共に、言いようの無い喪失感を感じざるをえません。

倉橋さんは長野県クラブ設立後間もない平成元年に入会され、以後積極的に活動されました。関東甲信越支部の保存問題委員会の初代の長野地域会委員として活躍され、第1回の保存問題大会の松本での開催に尽力されました。また、会と会員の情報発信の場として「愛と情熱の家づくり」発刊を提案され、作成部会長として4年間100回を超える会議を経て平成11年暮れに第1号が発刊されました。倉橋さんは編集後記で次のように書かれています。「この本が家づくりを望む方のために役立ち、将来2号、3号と出版され、またJIA長野県クラブの新しい仲間の輪が1人でも2人でも広がることを切望します」

“山口さんねえ、ぼくはJIAの役に立ちたいんだよ”と口癖のように仰っていた倉橋さん。疾風のように現れて、あの人なつこい笑顔で精力的に動き回り、強力なエネルギーを振りまきながら気がつく次の場所へと去っていたという印象のままに、猛烈なスピードで人生を駆け抜け、あっという間に逝かれてしまいました。

全国を股にかけて活躍される一方、松本とその文化を愛し、地域社会と積極的に関わる活動を通して建築家の職能を全うされました。

倉橋さんの遺志を引き継いで行くことで恩返しをしたいと考えています。

心からご冥福をお祈り申し上げます。



2015年2月ホテルレストランショー講演



2014年3月山形県小野川温泉まちづくり



2013年6月よりカタクラ産業遺産群の保存・活用の署名開始



2010年建築家協会全国大会



倉橋 英太郎 氏

■経 歴

- 1950年 4月3日 松本市生まれ
- 1975年3月 金沢工業大学建築学科卒業
- 1975年1月～3月
BROOKS, HENSLY, CREAGER
ARCHITECTS, SPOKANE, WA. USA
設計事務所研修
- 1975年4月～1983年3月
(株)伊藤建築設計事務所 勤務
- 1983年4月 倉橋英太郎建築設計事務所 開設
- 1988年～ (株)倉橋英太郎建築設計事務所に改組
- 1991年～ (株)都市文化研究所 併設
- 1994年4月～2002年3月
信州大学社会開発工学科非常勤講師として勤務
- 2005年4月～2009年3月
長野県景観審議会 委員
- 2004年～2008年
NPO法人江戸城再建を目指す会アドバイザー

■執筆、掲載誌・TV出演の紹介

- 建築設計資料81『旅館』(建築資料研究社) 執筆
- 長野県の本物づくりの専門家1 家づくり・空間演出の六十八人 (SBC信越放送)
- 信州の建築家とつくる家 愛と情熱の家づくり (JIA長野県クラブ/編)
- 和風住宅(新建新聞社)
- 大改造!!劇的ビフォーアフター(ABC・テレビ朝日系列)
- 風格ある和風住宅(ニューハウス出版株式会社)
- リビング信州2008(信濃毎日新聞社)

第9回 松本安曇野住宅建築展

山田健一郎



松本市美術館の中庭に面した子供創作室の小さなスペースに、写真や図面を押し込んで第1回の松本安曇野建築展を開催しました。それからまだ十年も経っていませんが、当時は住宅建築を美術の一分野として捉え、美術館に展示場所を借りるのでさなかなか理解を得られませんでした。それでも毎年展覧会を重ね、

合わせて美術館中庭で子供の為の空間体験ワークショップをお手伝いする中で、美術館との間に様々なコミュニケーションが生まれ、工芸の五月の建築家と巡る水めぐり、JIA長野県クラブの建築祭など、美術館と手を結んだ様々な活動へと発展しました。毎年継続してきた我々のささやかな展覧会が、地方都市に建築文化を根付かせるのに少しでも役に立った事を嬉しく思います。そして今年は「戦後日本住宅伝説」展が開催され、美術館の計らいで会期を合わせたゴールデンウィークに「第9回松本安曇野住宅建築展」を開かせて頂き大変感謝しています。

第4回から会場構成の担当者を決めてインスタレーション的な空間構成を行ってきましたが、今年は私が会場構成の当番の年となりました。同

時開催の「戦後日本住宅伝説」と対峙するなかで、我々ローカルアーキテクトが何をして来たか自問する中から、一地方都市の中で、常に何かに向い合ってきた我々の建築の作り方をテーマとする事になりました。「向かい合う建築」と題して、天井から視線の高さに1坪大のフレームを吊るし、展覧会場のパブリックスペースの中に、1坪のパーソナルスペースを仕込んで、来場者は嫌がおうにも其々の展示と向き合わざるを得ない状況を作り出してみました。来場者が「頭隠して尻隠さず」の状態となる、ユニークな展示空間に戸惑う人もいましたが、多くの人に面白かったという嬉しい感想を頂きました。

この展覧会がこの後、AKB48の様に一人ずつ卒業していくか、キャンディーの様に解散するか、取りあえずは会場構成担当が一巡する第11回までは、今のメンバーのまま続けていきます。来年・再来年と今しばらくお付き合いください。





2015年度の所信

JIA長野県クラブ代表 山口 康憲

JIA長野県クラブは1987年に発足し今年29年目を迎えました。現在行われている委員会を中心として活動する体制は出澤会長の時代に導入され約20年が経過しました。会の活性化の源であり、我々の活動は支部・他地域会からも高く評価されています。実は、意外かもしれませんが、関東甲信越支部23地域会の中で委員会を設置して活動しているのは当会だけです。これからもぜひ継続していくべき貴重な体制ではありますが、もしかしたら、そろそろ過渡期に差し掛かっているのかもしれない。

JIA支部・本部は現在深刻な会員の減少に直面しています。これはJIAに限らず建築他会でも、あるいは日本全体の共通の構造的課題で

すが、いわゆる少子高齢化とこの20年間に渉る市場規模の縮小や規制強化による閉塞感にも起因する問題と考えます。当会も他人事ではなく近い将来必ずや直面するに違いありません。

代表を拝命しこの1年間の活動を振り返ると、多くの会員の皆様のご理解・ご協力の下に運営されていることを改めて実感しました。それは一人一人のJIAに対する思いの結晶だと理解しています。一方で上記の押し寄せる危機への対応にも我々は配慮せざるを得ないとも感じています。

活動内容を足元から見つめ直し、参加に至らない会員のニーズを汲み上げながら、魅力のある活動、参加しやすい、参加したいと思える活動に磨き上げて行くことで会の活性化に繋げて行きたいと考えています。

会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

今年度の抱負と展望・活動予定

総務委員会 今年度の抱負

藤松 幹雄



総務委員長を仰せつかり早一年。会の運営に役立っているか?と振り返ってみるとまだまだ貢献度が足りないと反省しております。委員会活動は委員長を頭に委員の皆様のご協力によって社会的な活動や自らの研鑽の場として有意義な会となっているように思いま

す。昨年の暮れにおきた神城断層地震の緊急的な支援活動は山口代表自ら旗を振って多くの会員がボランティアで参加しました。建築家として地域のために役立ち頼りにされるこの会を頼もしく思います。今年度は役員改選の年でもあります。総務委員会としても重要な年になりますので昨年度の反省を踏まえて円滑な運営に努めたいと思います。

広報委員会 変化を求めて

丸山 和男



昨年度に引き続き広報委員長を担当します、丸山です。昨年度は、副委員長はじめ、委員の皆様にご助けられて何とかやってきた感じです。ありがとうございます。建築家通信は副委員長の吉田さんの努力で、今までと違ういい物になったと思います。本年度もまた新

たな視点で発刊していきたいと思います。ホームページは新たにドメインを取得しましたが、内容は大きく変わっていません。出来るだけ早い時期に委員会でごめながら、リニューアルを行きたいと思えます。また「あるしてくとVol.2」も例年通り12月発刊する事が出来ました。内容については反省点も多く、第三者出版と言う枠の中で広報委員会として関わって行きたいと思えます。

交流委員会 今年度の抱負

山田健一郎



交流委員会は、夏・冬のセミナーを始めとして、会員・協力会員の皆様方の日頃の活動を軸にして、相互の交流・親睦を図るプログラムを提供していきます。合わせて、支部や近隣のJIA会員の方々との交流も続けてまいります。また、今年は新たな試みとして、秋に

協力会員が主導した企画による、親睦を主とした集まりも予定しており、会員や協力会員の普段の活動とは違う新たな側面も垣間見えるかもしれません。皆様、色々なプログラムには是非、積極的にご参加ください。

事業委員会 第10回建築祭に向けて

菊池 弘之



昨年度の建築祭は、皆様のご協力のお蔭で無事終えることが出来ました。前委員長の尾日向さんと副代表の荒井さん両名の敷いて頂いたレールに乗って通過できた気がしております。昨年度は松本市美術館からの提案3項目、設営を金曜日に行った、講師を早めに決め宣伝期間を長くできた、昨年度の市民賞を入口ホールに展示した事などが、市民票の投票に大きく影響し、190票も投票して頂きました。内藤先生のお人柄でしょうか、温かい講演会・コンクールになったと感じております。先日の美術館との共同反

省会では様々な意見が上がり、改善の余地がまだまだあります。年々改善し、より良い建築祭にしていきたいと思っております。過去7年間、美術館と共同企画し開催をしてきました。長野県クラブとしては文化講演会23回、卒業設計コンクール24回開催されておりますが、「慣れ、が出てきている、新しいメンバーも入ってきているので、もう一度役割分担・全体の流れを検討するように」と既に副代表に鞭を締め上げられております。

今後の予定は、信大の講評会が7月29日に開催されますので、同日に委員会を開催し、8月末までに講師の決定に向けて動いております。ご協力をお願い致します。

まちづくり委員会の展望

下崎 明久



「地域材の利用促進」信州の都市・農村の豊かな空間づくりへの貢献」といった2大目標を抱えて活動しています! …といたら大層な活動をしているのだらうと思ってしまうのですが、それは既にJIA会員が其々に内に秘めて日々仕事をしておられることだろうと認識し

ています。当委員会では「改めて知る」ことから、皆さんが前出の目標へと近づくお手伝いをしていこうと思えます。地域材の現場へ赴き関係者の生の声を聞く「フィールドワーク」、そして代々続いてきた「まちなみウォッチング」を多く企画していきます。多くの皆さんの参加をお願いします。

新入準会員の紹介

宮戸 洸一



みず✕設計の宮戸洸一と申します。大学卒業後、地元である飯田に戻ってきました。現在の学生時代の頃、社会や地域など数年前までの片隅にあったがおぼろげだった事柄が、ここ2年程の実務に携わる中で、地域を意識し、急激に具体的にかたちにすることが多くなりました。また、ハードからソフト、過去から

未来といった様々な事柄を総合的に考えていかなければならない建築の幅の広さと難しさ、またそれに伴う建築の力を実感しています。長い時間をかけて豊かな環境をつくる建築を目指していきたいと思っています。本会では、会員の皆様にご指導をいただきながら、前進をしていきたいと考えていますので、よろしくお願い致します。

協力会だより

協力会会長

今年度のあいさつ

(株)日建エンジニアリング 加賀 修



法人協力会長を仰せつかり、なにも様子が分からないまま、はや1年が過ぎました。委員会等に出席させて頂いて、何となく雰囲気がつかめてきた感じがします。総務委員会に出席させて頂いておりますが、委員の皆さまの議論伯仲、長野県クラブの活動に真摯に取り組んでいる様子がよくわかります。そのなかであって協力会としてどう参加してどういう協力が出るのかはまだ模索中ですが、協力会の皆様のご意見・ご要望を伺いながら、一緒に取り組んでまいりたいと思います。

先日、総会前の総務委員会終了後に、川上前代表や林先生方と話す機会がありまして、長野県クラブの諸先生方はどうもまじめすぎるということをお願いしました。息抜きというレクリエーション的な行事を行ったらどうかと、ご提案申し上げました所、じゃあ予算をつけようということになり、協力会としての予算を頂けることになりました。今年の秋頃に何かイベントを行いたいと思っておりますので、協力会の皆様のご協力・ご意見をいただければ幸いです。

微力ながら少しでもお役にたてるよう取り組んでまいりますので、今年度も宜しくお願い致します。

新入個人協会員

新入会のあいさつ

(有)写楽 和田 庄平



長野市の建築写真。スタジオ写楽と申します。おかげさまで写真で約30年お仕事をさせて頂いております。建築は、総合芸術だと思います。人が住むと言う事、意匠、機能性とデザイン性、価格も考えて作られる実用性を兼ね備えた総合芸術です。カメラマンはお施主様より先にその作品に出合える、写真が雰囲気を感動的に伝えられ

れば表現者として幸せを感じます。

特徴としては、写真合成で、狭い所も写せる様になりました。

著作権フリー、名前も入れる必要はありません。沢山撮影、アルバムは写真集が多いです。

また、建築物の保存問題やお寺様や仏像にも興味がございまして、写真だけでも資料として残したい!! などボランティアで撮影いたします。

〒380-0803 長野市三輪7-4-5 三輪ハイツ1F 携帯:090-1057-1186 FAX:026-266-0062 E-mail:sharaku@rose.ocn.ne.jp URL:http://www.sharaku-net.com/

総会報告

吉田 満



4月25日に長野市においてJIA長野県クラブの2015年度通常総会が開催されました。事業報告・決算報告も滞りなく承認されました。山口康憲代表の2年目として事業計画・予算計画も発表されました。

通常総会の後、会員集會が開かれ、「長野県神城断層地震支援活動報告会」が行われました。山口代表による「長野県神城断層地震支援活動報告、信州大学松田昌洋助教による「建築被害と復旧にむけた課題」の発表では、会員の中からも熱心な質疑があり、実務にも生かせる様な内容で、新年度の始まりとしてふさわしい有意義な1日となりました。

開催したイベント

- 4月25日(土)・・・JIA長野県クラブ 2015年度通常総会
会員集會・懇親会
- 6月20日(土)・・・香山壽夫氏と語る会
- 6月24日(水)・・・JIA関東甲信越支部 環境委員会・長野地域会共催講座
「暮らしから始まる住宅・環境デザイン実践セミナー」

祝受賞・表彰

第12回 長野県建築文化賞

- 〈一般部門〉最優秀賞(知事賞)
「スモールオフィス」……………山田健一郎
優 秀 賞
「Gallery Cafe ならの木」……………甘利 享一
- 〈住宅部門〉優 秀 賞
「階層の家」……………林 隆
優 秀 賞
「ガーデンハウス」……………清水 国寿
- 〈リノベーション部門〉優 秀 賞
「流れを生むリノベーション」……………林 隆

平成27年度 長野会建築作品賞 (一社)長野県建築士事務所協会

- 最優秀賞「満蒙開拓平和記念館」……………新井 優
- 優 秀 賞「地域密着型複合福祉施設 アイリス茅野」…… 倉橋英太郎

第17回「まちの活性化・都市デザイン競技」

- 飯田市長特別賞「丘のまちは緑でつながる」
……………松下 重雄・中家 博之・宮戸 洸一

今後の行事予定

- 7月3日(金)・・・フィールドワークin松代・柴石編
- 7月11日(土)・・・第1回幹事会
夏のセミナー・納涼会



編集人/吉田 満 発行人/山口康憲
発行所/JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内
TEL: 026-232-3897 FAX: 026-232-5303
<http://www.jia-nagano.com>
E-mail info@jia-nagano.com

編集後記

山口代表体制が2年目となりました。今号は、代表をはじめ各委員長の活動の抱負を中心に編集しました。広報委員会では「公益法人化に伴う広報のあり方」を継続的に議論するという事にかけています。「建築家通信」では、建築関係者以外の方に「建築にまつわるコト」を特集していき、一般の方も興味を持っていただけるような会報にして行きたいと思っています。

吉田 満

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。